

13.5 -

タスクにはオペレーティング・システムがをえます。に、もしオペレーティング・システムがのののをしないようなです。例えば、スレッド・サポートこれは、プログラマーがえるがあるのは、2つのです。:

1. マイクロソフトのWindows

3.1や、くのいUNIXマシンなどいくつかのオペレーティングシステムでは、スレッド・ライトウェイト・プロセスがサポートされていません。そこでは、ののプロセスときには、ヘビウエイト・プロセスとばれますがサポートされているだけです。この2つのいは、スレッドは、メモリーをできるのにし、プロセスはにそれはないということです。スレッドをサポートしないシステムにおいては、なにかタスクがオペレーティング・システムにリクエストをうたとえば、など、のAdaのタスクがは、オペレーティングシステムがそのリクエストをするまでしてしまいます。ほとんどのAdaコンパイラがこのようなにおいて、のAdaタスクをのオペレーティングシステムのプロセスにいれて、そのプロセスのでタスクをシミュレートするためによります。オペレーティングシステムは、なったAdaのタスクがのプロセスでしているのをすることがないので、のAdaタスクがしてしまうのです。よりくのオペレーティングシステムは、となってきたので、このはなくなってきました。そして、みみシステムにしてはにはとはなりません。(みみシステムでは、Adaはシステムをにしますし、リアルタイム・オペレーティングシステムでします)。

2.

いくつかのオペレーティングシステムでは、タスクでをのするのは、かであるかがある場合があります。しいのタスクでをのするを、「プリエンティブ・マルチタスキング」もしくは「タイムスライシング」とびます。プリエンティブ・マルチタスキングをサポートするオペレーティングシステムは、よりプログラマーにしてです。プリエンティブ・マルチタスキングをサポートしないオペレーティングシステムでは、Adaコンパイラは、タスクがのタスクとするまで、タスクはしつづけるか、たされるかのどちらかになりますこのdelayをいます。このようなのるいを、「コペラティブ・マルチタスキング」をんでいます。なぜなら、しいのタスクは、CPUをするためのしなければならぬからです。ほとんどの々は、Adaのがプリエンティブ・マルチタスキングをっているのでんでいます。もしプログラマーがコオペラティブ・マルチタスキングのみをサポートするAdaコンパイラとしなければならぬとしたら、するのあるタスクのさまざまなに「delay 0.0」ステートメントをすることをしてください。;

いくつかのコンパイラは、プログラマーにプリエンティブか、コオペラティブなるのいをするようにできています。また、のほとんどのAdaコンパイラは、ほぼにプリエンティブ・マルチタスキングのるのいをしています。

タスクについては、それほどこのLovelaceではカバーしていません。例えば:

-
プログラマーは、パッケージの、もしくはにすることによって、プログラマーがしているりにおいてのタスクをするがます。(グローバルののと同じです)。

-
タスクをしてから、タスクをするわりに、プログラマーはタスクをすることができます。

-
エントリーは、ファースト・イン・ファースト・アウトにおいてキューされます。そして、もしであれば、キューすることがます。

: <http://www.adahome.com/Tutorials/Lovelace/s13sf.htm>